

"天気" 投稿規定

「天気」は日本気象学会の機関誌で、年12回発行され、気象に関係のある、(1)論文、(2)要報、(3)討論、(4)総合報告、(5)解説、(6)写真、(7)学会記事、(8)会員消息、(9)意見、その他を自由に投稿できますから、ふるって御投稿下さい。

御投稿の際は、次の点に御注意下さい。

1. 送り先は、東京都千代田区大手町1の7、日本気象学会、天気編集委員、奥田穰宛、のこと。天気編集委員が受理した日をもって、論文受理日とします。
2. 原稿は、400字詰めまたは500字詰め原稿用紙に和文で横書きにし、長さは400字詰め原稿用紙で、30枚を越えないようにして下さい。これを越えると、適当な代価を請求することがあります。
3. 論文の始めには、題名、著者名(ふりがな)、所属機関名を明記して下さい。
4. 図表の数はできる限り少くし、図は黒で縮尺を考慮してせん明にトレースして下さい。
5. 数式は行をあけて明瞭に書いて下さい。
6. 引用文献は論文末につけ、次の例にしたがって書いて下さい。

藤原咲平、1950：気象光学進歩の概観、気象集誌

I, 28, 55~68.

Arnason, G, 1953: A Baroclinic Model of the Atmosphere applicable to the Problem of Numeical Forecasting in Three Dimensions,

I. Tellus, 5, 386~420.

「天気」の編集は天気編集委員会で、事情によっては、論文の加筆、削除等を著者に請求することがあり、内容によっては、印刷しないことがあります。また、印刷の順序は受理日順としますが、編集の都合によって、必ずしもその通りに行かないことがありますから、御了承下さい。

会員は論文、要報、総合報告、解説の別刷を50部まで無料で請求することができます。それ以上の部数が御入用の時は、実費で御渡します。学会記事、会員消息、写真、その他に対しては別刷を出しませんが、場合によっては実費でおわちします。非会員の方が投稿された場合には、印刷代および別刷の実費をいただくことがあります。

「天気」編集委員はつぎの通りです。

編集理事	有住直介	
編集主任	蔵重一彦	
編集幹事	奥田穰	
	荒井隆夫	小埜啓雄
	小林寿太郎	長尾隆
	吉野正敏	

日本気象学会役員の変更について

現在の役員は、昭和31年5月で満了となりますので、下記要領により改選を行います。

昭和31年3月31日 立候補および推薦候補届出締切

同 5月19日 文書による投票締切

同 5月21日 開票

自ら立候補をする者は、候補者住所氏名、生年月日、所属機関、種類別(常任理事、地方理事、監事の別)を記入押印の上、また候補者を推薦する者は、上記各項を明記した推薦状に候補者の承諾書を添え、期日内に選挙管理委員会に到着するよう、届出されたい。

昭和31年2月9日

東京都杉並区馬橋、気象研究所内

日本気象学会選挙管理委員会

【附記】 定款改正に伴い、理事の定数その他に若干の変更があったので、定款細則の役員選挙に関する条項を下に抜萃する。

細則第3章

第6条 理事および監事の選挙は、次の方法による。

1. 常任理事は、東京都およびその近県在住の通常会員の中から13名を、全国の通常会員が選挙する。
地方理事は、各地区毎に定められた定数だけ、各地区内の通常会員によって互選される。
各地区の地方理事の定数は、各地区の会員数に応じ、次のとおりとする。

北海道地区(北海道).....1名

東北地区(宮城、青森、秋田、山形、福島、岩手の各県。).....1名

関東地区(東京都、神奈川、千葉、茨城、埼玉、群馬、栃木、新潟、富山、石川、福井、長野、山梨、静岡、愛知、岐阜、三重の各県。).....2名

関西地区(大阪府、京都府、滋賀、和歌山、奈良、兵庫、鳥取、島根、岡山、広島、香川、愛媛、徳島、高知の各県。).....2名

九州地区(山口、福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島各県。).....1名

2. 監事は通常会員の中から2名互選される。
3. 通常会員は、理事および監事に立候補することができる。
4. 他の通常会員によつて書面により理事または監事に推薦され、かつそれを承認した通常会員は、推薦候補者となることができる。
5. 理事および監事は、立候補者および推薦候補者以外の通常会員からも選挙される。
6. 理事および監事の選挙は、それぞれ種類別に連記する無記名文書投票とする。

註 通常会員とは、A会員(会費年額1080円を納め、天気または集誌の配布を受ける者) B会員(会費年額2040円を納め、天気および集誌の配布を受ける者)を総称したものです。